

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学院卒業生 李宜芳さん

特集：学生の活躍


vol.99

翔麗祭 一祭学彩 ~麗しく翔べ~

9月16日(土) 17日(日) 開催

目次

特集:学生の活躍 2

青森中央学院大学 6

- ・前学期学位記授与式
- ・久留米大学との学生間交流
- ・雇用創出連携プロジェクト
- ・合同企業等見学会 in むつ
- ・短期海外アクト
- ・大泉光一教授書籍紹介
- ・中学生による職場体験
- ・横内町会との連携事業
- ・留学生による母国料理レシピ動画発信
- ・短期海外アクト「台湾青森フェア」
- ・国際交流センターより
- ・海外留学に向けて
- ・女子力 A-girl プロジェクト
- ・キャリア支援セミナーに参加して
- ・飛翔を終えて
- ・看護研究を通しての学び
- ・基礎看護学演習
- ・アフロリレーマラソン参加!

青森中央短期大学 10

- ・健康づくりコラボ講座
- ・同窓会開催
- ・茶道遠州会特別講演
- ・幼児保育学科ミュージカル同時開催企画
- ・連携企画展「仲良しの色彩(いろ)展
- ・東北町 P-1 グランプリ
- ・中短生が伝える青森の味! 彩り弁当
- ・ビオトープ絵本完成!
- ・ドレミくるーぶ
- ・インターンシップ報告会・相談会
- ・西洋料理テーブルマナー講座
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 12

- ・合宿保育
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 14

- ・好きを仕事にする
- ・「田園に死す」衣装製作参加
- ・コラボレーションファッションショー
- ・職業体験フェア
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通 18



「むつサテライトキャンパス大学祭」を開催

11月11日・12日の2日間、むつ市の下北文化会館にて、むつ市×弘前大学×青森中央学院大学による初のイベント「むつサテライトキャンパス大学祭」を開催しました。

本学学生は実行委員で運営に携わるほか、「ねぶた囃子方部」、「軽音楽部」、「アンサンブルサークル」、「模型サークル」、「お茶会サークル×FSAサークル」などで参加し、イベントに彩を添えました。



ビオトープサークル「ドイツ大使館賞」受賞!

12月2日、青森中央短期大学にもたらされた朗報が「全国学校・園庭ビオトープコンクール2017」における「ドイツ大使館賞」の受賞である。「ドイツ大使館賞」とは同コンクールにおける上位5賞(文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境省賞、ドイツ大使館賞、日本生態系協会会長賞)の1つであり、「学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、学校・園庭ビオトープを題材にユニークな学習・体験活動を行っているものを表彰」するものである。本学の受賞は、保育者育成プログラムの中にビオトープを融合させたという独自性にその理由がある。なお、2月11日に行われる授賞式では、ビオトープを活用した教育実践を行っている幼稚園から大学までの学校が集結し、それらの発表会も同時に開催される。



食育プロジェクト「おむすび」活動中!

田子町立田子小学校が今年度取り組んでいる“つながる食育推進事業”の一環として、青森中央短期大学学生食育プロジェクト「おむすび」のメンバーが、食育活動を行いました。

食物栄養学科の学生が、噛むことの大切さを紙芝居を使って話し、幼児保育学科の学生は、本学オリジナル食育ソング「あさごはんブルース」の歌とダンスを全児童と保護者の皆さんにレクチャーし、会場は盛り上がりました。

全校児童の前での実演で緊張もありましたが、今回の活動を通して「伝える」ということの大切さと自信を実感したようです。今後も本学ならではの、楽しい食育活動を展開していきます。



青森中央学院大学

前学期学位記授与式

今年度の秋季卒業生のための学位記授与式が、9月13日に挙行された。留学生6名、日本人学生2名、そして大学院生1名に対し、花田勝美学長より学位記が授与された。ウー・ウェイ・シンさん（マレーシア出身）による歓送の言葉に続き、卒業の言葉がグウェン・ゴック・フォン・チャンさん（ベトナム出身）によって、自らの体験談を交えて感慨深げにしっかりと述べられた。それは後進の留学生への極めて有益なアドバイスになっており、卒業生のご父母を含め多くの参加者の胸を打つ感動的なものであった。

式典後祝賀会が催され、石田憲久理事長より、留学生・卒業生のひとりひとりについて、思い出と励ましの言葉がかけられた。また卒業生のスピーチでは、目を見張る日本語能力を見せる人も含めて、各人各様で、様々な思いが交錯する楽しい雰囲気の中で終了となった。

(学務委員長 小俣 勝治)



雇用創出連携プロジェクト

青森COC+推進機構雇用創出連携プロジェクト（ツーリズム）の一環として、9月12日にねぶたの家ワ・ラッセ・イベントホールにおいて、青森県における自転車振興を通じた雇用創出について考えるセミナー「プロサイクルードレースチーム『宇都宮ブリッツェン』と地域～自転車振興を通じた雇用創出と地域づくり～」を開催した。

日本で初めての地域密着型プロチーム、「宇都宮ブリッツェン」を管理運営するサイクルスポーツマネージメント代表取締役社長の柿沼章氏に、チーム設立の経緯から地元根差したチーム運営、地域との関わり等についてご講演いただいた。

講演後には、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなった。また、本県のサイクル・ツーリズムを積極的に展開するにあたり、先進地による事例紹介は、大変参考となる講演であった。



久留米大学との学生間交流

9月8日から14日まで、本学の学生が連携協定を結んでいる久留米大学を学生6名が訪問した。吉野ヶ里遺跡や大川市の家具産地を視察しただけでなく、9日は「久留米焼きとり日本一フェスタ」に出店している久留米大学のブースを共同で運営した。大学生が開発した日本酒と焼き鳥が味わえるということもあり、ブースには多くの人々が訪れた。

また、9月10日には福岡県の「道の駅うきは」において青森フェアが開催された。この青森フェアも本学の学生と久留米大学の学生によって運営され、リングを使用した菓子やホタテの加工品といった青森県の特産品が販売された。

本学の学生は跳人の衣装を身に着けて販売を行い、方言を交えた呼び込みによって多くの人々が立ち寄り、青森フェアは大盛況のうちに幕を閉じた。



合同企業等見学会inむつ

9月19・20日、COC+ブロック事業「合同企業等見学会in むつ」において、本学学生9名を含む学生10名が参加し、むつ下北地域の企業6社を訪問した。今回で2回目となる企業見学会で、各訪問企業による工場見学、農場見学や熱心な企業プレゼンテーションに対し、学生からの質問が相次ぎ、予定時間をオーバーするなど、大変盛り上がり、学生にとって貴重な経験となった。

今回の企業見学会では、初めての試みとして、訪問企業先の従業員の方々との意見交換会を開催した。そこでは、むつ市で働く喜び、仕事の内容を題材に積極的な意見交換が行なわれ、特にむつ市出身の学生にとって大変参考になったようである。

大学がなく、進学者のほとんどが市外、県外へ転出するむつ市にとって、Uターン新卒者を確保することは、大きな課題である。県内大学生にむつ市やむつ下北地域の企業の魅力をアピールできる良い機会になったに違いない。



短期海外アクト I B 開講

経営法学部では今学期、2年生以上を対象に新しい科目「短期海外アクト I B」を開講した。この科目は、国際産直プロジェクトで輸入しているマハチャノ・マンゴの生産地でのフィールドワークを含む、アクティブラーニング科目である。

履修者は、来年2月に行われる現地での海外研修を前に、より良い異文化理解や潤滑なコミュニケーション、タイの文化や歴史、現代社会におけるタイの社会問題などに関する事前学習を進めている。

13名の履修者はほとんどが海外への渡航経験がなく、パスポートの申請等も含め慣れないことばかりではあるが、研修計画の作成や安全管理や簡単なタイ語の学習も含め、しっかりと準備を進めている。



中学生による職場体験

青森中央学院大学・青森中央短期大学は、青森県教育委員会の主催する「我が社は学校教育サポーター」制度に登録しており、出前講座・職場体験等の小中高校生のキャリア教育に対して様々な協力活動をしている。

9月5日、6日の2日間、青森市立西中学校と筒井中学校の中学2年生9名を職場体験として受入した。参加した中学生は、附属第一幼稚園や特別養護老人ホーム三思園、図書館等を見学した後、広報の仕事体験も行った。広報体験では、キャンパス内の撮影を行い、キャンパス紹介のポスター作製を体験した。



大泉光一教授新著、丸善新書ランキング1位!

大泉光一教授がまた本を出版された。文春新書『暴かれた伊達政宗「幕府転覆計画」』である。ライフワークとされる半世紀にわたる研究による結論を、本書によって一般読者に示された形になる。一般読者向けに平易な言葉で、最終的に到達された見解を淡々と述べておられるが、ここに至られる道は、ヴァチカン機密文書をはじめとする膨大な資料の探索と解説等の気の遠くなるような道程であられたことは想像に難くない。

クリスチャンとして洗礼を受けていない伊達政宗がなぜ遠くヴァチカンまで支倉常長を派遣したのか、腑に落ちないものを感じる読者は、本書によって政宗の真の意図を示唆されるに及び、やっと納得感が得られることとなろう。一種、ミステリーを読み解くようなスリル感がある。伊達政宗といえば、戦国・江戸時代初期に東北では珍しく全国的に知名度の高い武将である。それだけに今回新しい歴史解釈には、一般読者からも多くの関心呼び、丸善丸の内本店の新書ベストセラー第1位にランキングされた。ぜひ、紐とかれたい。

(「こぶしの花」編集長 加藤 澄)

横内町会との連携事業

学園キャンパスのある青森市横内町会とは、平成26年度に包括連携協定を締結し、毎月定期的に横内町会役員と本学地域連携担当が意見交換を行い、様々な連携事業を行っている。毎年8月半ば、旧横内城址と伝えられている常福院境内で開催される「横内まつり」では、ねぶた囃子方部の演奏や、学生による屋台の出店等、地域の住民と学生との交流が行われている。また、町会が主催する水源地からの用水堰の定期清掃や、キャンパス周辺の横内川や合子沢川の周辺の清掃活動「水辺サポーター」に学生が参加する等、環境活動等にも活動の場を広げている。

その他、看護学部の演習や実習に対して町会から協力が得られている。通学路等の確保のために硬式野球部の学生による冬期間の雪かきボランティアも連携を取りながら実施している。



留学生による母国料理レシピ動画発信

本学では平成27年度より、青森県産食材をアジア地域の方々に知ってもらうために、本学に在籍する留学生が県産食材を使った母国料理のレシピ作成を行い、情報発信を行ってきた。今回その一環として、青森県総合販売戦略課が発信している「青森のうまいものたち」のホームページにおいて、ベトナムからの留学生8人が作成した「生春巻き」「アピオスぜんざい」のレシピ動画を日本語とベトナム語で公開した。どちらのメニューも、ホタテ、りんご、アピオスなどの県産食材がベトナム料理にふんだんに使われている。動画は7月に本学サテライト・キャンパスにて撮影されたもので、調理だけでなく、ベトナム語訳やベトナム語版ナレーションも留学生自らが行った。

■「青森のうまいものたち」

<http://www.umai-aomori.jp/movie/movie.phtml>



短期海外アクト「台湾青森フェア」

9月2日、3日に台南市の臺南文化創意産業園區において青森フェアが開催され、短期海外アクト受講生が参加した。青森フェアで実施された土鈴の絵付けや扇ねぶたの製作体験では、本学の学生が作り方を丁寧に教え、参加者はオリジナリティ溢れる土鈴や色鮮やかな扇ねぶたを作成した。また、青森フェアではリンゴを使用した菓子やホタテの加工品など、青森県の特産品が販売され、試食後に、大量に商品を購入する客の姿が目立った。

青森フェアのフィナーレは跳人体験である。学生が参加者に跳人衣装の着付けを行った。普段、なかなか着ることができない跳人衣装に身を包んだ参加者は何枚も記念撮影を行っていた。学生は参加者に跳ね方や掛け声を教え、「JAつがる弘前」から提供を受けたねぶた絵をバックに、跳人体験が行われ、会場は活気あるねぶたの掛け声に包まれた。



国際交流センターより“高校生の研究・交流活動に貢献”

【黒石商業高校インバウンド・モニターツアー】

5月7日、高校生が黒石活性化をテーマに考案し、商品化をめざしている黒石巡りの観光プランに留学生が参加し、アドバイスしました。

【青森中央高校「あすなろ学」】

6月15日、留学生が「あすなろ学」の課題研究をしている高校生からインタビューを受け、青森のことや文化の違いなどについてディスカッションしました。

【青森高校SGH(スーパーグローバルハイスクール)】

6月29日、SGH生徒が調査している県産品や観光名所について、留学生が英語のみによる意見聴取に協力しました。

また11月10日にはSGH生徒と留学生との交流会が開催され、青森県の課題などについて英語のみで意見交換をしました。



【青森南高校外国語科】

7月15日、16日の南高祭外国語科企画に参加し、母国についてプレゼンテーションをしました。

10月3日、高校生がアメリカで行う日本文化紹介プレゼンテーションの内容を留学生がチェックし、改善点をアドバイスしました。

【青森南高校茶道部】

8月30日、留学生が茶道体験上級編に参加するとともに茶道部の生徒の皆さんと交流しました。



【青森明の星高校】

10月20日、「英語科1年生との交流会」と「明の星グローバルラボ」に留学生が参加し、総合学習の時間などで学んでいる「グローバル化」について意見交換しました。



海外留学にむけて

学校法人青森田中学園では、海外留学を希望する学生に対し、有意義な海外留学になるよう様々なサポートをしています。これらを利用して、学生生活の大きな1ページを作りましょう！

奨学金支給で経済的支援

海外留学は費用がかかるもの。学園では、留学生全員に海外留学奨励費(給付奨学金)を支給し、経済的支援をしています。

平成29年度前学期は、台湾・タイ短期留学学生6名に5万円、アメリカ中期留学学生1名に7万円が支給されました。また、日本学生支援機構海外留学支援制度に基づく奨学金対象者となった台湾へ留学する1名には、渡航後に6万円が支給されました。



セミナー等で留学前・中・後に活かす

海外留学は“留学中”だけを考えているだけではいけません。留学に備え、行く前に様々な知識を蓄え、留学中・後に活かしてもらえようようなアドバイスをしています。

★異文化コミュニケーション&危機管理講座★

“留学中”、自分の身は自分で守ること、日頃から危機管理意識を持って生活する習慣をつけることの重要性を“留学前”から実践します。

★日本語教育事前講座★

“留学中”に必ずある日本語や日本文化を教える機会に役立つ日本語の使い方や事例を学びます。

★キャリアセミナー★

グローバルに働く意味や留学が就職(活動)に与える効果など、“留学後”のキャリア形成を見据える意識を育成します。



語学講座で語学力アップ

留学先の言語と英語がわかれば、人気者になれるかも！学園では、2つの語学講座を提供しています。

☆留学生による語学準備講座☆

タイに留学する学生は、タイの留学生からタイ語を、台湾に留学する学生は、台湾の留学生から中国語を学びます。

☆英語力向上講座☆

ネイティブティーチャーによる英会話講座とTOEIC講座で、英語をブラッシュアップ。アジア圏留学でも有効ですよ。



8月、いざ、出発！

台湾・南台科技大学(経営法1名・看護1名)では、様々な国の学生との交流を通して、学生の積極性に影響を受け、自分を見つめ直すことで向上心が出てきたという効果があったようです。



タイ・インターンシップ(経営法4名・看護1名)

では、チェンマイの高校の日本語クラスで日本語教員のアシスタントとしての体験と、最後は教壇に立ち、日本文化を伝える授業を担当しました。また、ホームステイを通じて、タイの日常も深く学べたようです。

後学期も海外留学しよう

2018年2月出発！後学期は、英語学習を中心としたアメリカ・カリフォルニア州立大学サンマルコス校とオーストラリア・マッコリー大学、中国語学習を中心とした上海大学への留学プログラムを用意しています。今年度はマッコリー大学へ7名、カリフォルニア州立大学サンマルコス校へ1名が出発予定です。来年度に向けて、興味がわいたら大学へ詳細は国際交流課(本部棟1F事務局)へ！

女子力 A-girl プロジェクト 「レッツ！エクササイズ」に参加して

看護学部2期生 大舘 夏海

私はからだを動かすことが好きなのですが普段なかなか体を動かす機会がないので今回のヨガ教室に参加しました。

ヨガ教室の講師は看護学部の高橋先生でした。リラックスできる音楽とともにゆっくり体を動かすことから始まり、徐々に体が温まるのを感じました。このヨガはマタニティヨガにも使われている内容のため、呼吸法を学び、無理のない動きが多くとても気持ちが良いものでした。私はしばらくストレッチや運動をしていなかったため、自分自身の体の硬さに驚きましたが、久しぶりに体を動かす爽快感を味わうことができとても楽しかったです。

今回はヨガ教室の参加でしたが、次回のボディメイクやエアロビクスにも参加したいと思います。みなさんも私たちと一緒に体を動かしてみませんか？



飛翔式を終えて

看護学部3期生 楠美 玲奈

飛翔式の目的は、将来の夢や希望を看護職者像として明確にしたうえで、2年次以降をどのように過ごすのかといったことを考え、有意義な学生生活となるように自らが学習計画を立てられるようになることである。また、各専門領域の臨地実習に臨む心構えを新たにすることである。

私は、飛翔式を通じて、自己の学習方法や勉強への捉え方を見直すことができた。今までは、テストに合格するため、あるいは、テストでいい点数をとるために勉強をしてきた。例えば、重要な語句を丸暗記するだけで、意味や仕組みを理解できていなかったり、なぜこうするのかの根拠が分



キャリア支援セミナーに参加して

看護学部2期生 阿部 茉莉奈

キャリア支援セミナーの「地元で働く卒業生との集い」に参加しました。お菓子を食べたりお茶を飲んだりしながら、堅苦しくない雰囲気の中で病院の概要や勤務状況を聞くことができました。来てくださったのは、現在、弘前大学医学部付属病院、むつ総合病院、あおもり協立病院で働いている卒業生の方でした。夜勤の状況や残業時間などの具体的なお話は、働く厳しさをイメージすることが出来て参考になりました。他にも、学生時代のエピソードや国試対策、面接練習のコツなど、普段は聞けないようなことも聞くことが出来ました。

3年生になり本格的に就職のことを考えなければならない時期なので、今回のセミナーは、就職活動への意欲が向上するものとなりました。また、県内の就職を希望している自分にとって、進路に向けて頑張ろうという気持ちになれる体験でした。



かっていなかったりしていた。そのような勉強方法が、国家試験合格の近道かもしれない。しかし、これから本格的な実習が始まると、自分の中でしっかり理解した知識でないと、実習で患者さんを目の前にしたときに生かすことができない。日々の学習が、将来、あるいは実習で、自分の知識として定着するような勉強をしなければならないと捉えることができた。このように考えると、看護について以前よりも深く追及していきたいと、勉強に対するモチベーションが上がってきた。

また、飛翔式を通じて、授業でしか関わったことのない先生方と交流を持つことができたり、同じ飛翔式委員として試行錯誤してきたクラスメイトと貴重な体験ができたりした。私にとって飛翔式は、自分の考え方を教えてくれた価値あるものとなった。将来、あるいは残りの学生生活を有意義なものにするため、日々、成長し続けたい。



看護研究を通しての学び

看護学部1期生 北川 果歩

看護研究の科目は3年次から開講になりました。自分の興味のあることや深く知りたいことについて、まずは文献を収集して一つ一つ丁寧に読み込み、それぞれの文献を簡潔にまとめて一覧表を作成して行きました。とても難しく、あっという間に1年が過ぎてしまいましたが、自分の興味のある分野だったので頑張りが続けたことが出来ました。

4年生になって論文の作成に取り掛かりました



が、様々な文献をまとめて得られた結果を考察する過程は、大きな学びになりました。看護研究発表会では、他のメンバーの発表も聞いて自分の研究結果と比べたり、関連する箇所を深く考えて掘り下げてみたりすることで、一人で研究を進めていた時とは違った学びを得ることが出来ました。看護研究を行うことで視野が広がったように感じられ、就職してからも研究を続けられるよう頑張りたいと思いました。



基礎看護学演習

看護学部4期生 工藤 小雪

今回の演習では、横内町会の方々を模擬患者とした血圧測定を行いました。初めて一般の方を対象として測定を行い、緊張もありましたが、普段の演習では気づかなかった点がいくつか見え、貴重な経験となりました。

その中でも、私のグループが担当した模擬患者の方は、演習後に「患者が安心できるように、自信をもってやったほうが良い」とアドバイスをくださいました。確かに、自分の命を預ける医療従事者が自信の無さそうな面持ちであったら、患者はその医療処置に不安を覚えると思いました。普段の学生同士の練習だとそういった基本的で重要な部分を忘れがちでしたが、この機会に改めて気づくことができました。横内町会の方々の協力の上で貴重な機会を頂いたことに感謝し、この経験をこれからの復習、練習等に活かしていきたいです。



アフロリレーマラソン参加！

看護学部2期生 高橋 里実

アフロハーフリレーマラソンは、海をバックに、アフロカツラを櫛がわりにリレーを行う大会で、私の所属する「走るサークル」では毎年欠かさず出場しています。私がこの大会に出場するのは3回目で、今年はチームの代表として出場しました。

例年に比べ、出場メンバーが少なかったため、一人ひとりの走る距離や回数が多く、楽ではありませんでした。しかし、「うさぎさんチーム」という名のもと、パワフルに駆け抜け、最後にはアンカーと一緒にチーム全員でゴールテープを切ることが出来ました！普段、活動の少ないサークルで、学年も学科も異なるメンバーが集まり参加した大会でしたが、苦しい中でも、楽しく笑いあり、精一杯走り、いい汗をかくことで、チーム一丸となり達成感や爽快感を味わうことのできた大会でした！



青森中央短期大学

食物栄養学科×幼児保育学科 健康づくりコラボ講座開催

10月21日、『健康づくり講座』と題して食物栄養学科と幼児保育学科コラボ講座が開催されました。食物栄養学科では舩澤正博先生による第一部『生活習慣病の予防について』、幼児保育学科では鈴木寛康先生による第二部『お家で出来る体力づくり』という内容で実施されました。

講義や実践の合間に積極的に質問される参加者の方々の姿からは、健康な心と身体に対する日常的な意識の高さが感じられ驚きの連続でした。

一部の講座では、日常の食事をバランスよくきちんと食べて運動する事の大切さや具体的な例、また、無理なダイエットの危険性等を学びました。

二部の講座では、前半の講義部分で身体の筋肉、心拍数や運動量、年齢とのバランス等についての知識を学んだ後、後半部分で体育館に移動し、心拍計をつけて運動をすることで、各自のペースを知った上で体力作りをすることの大切さと楽しさを実感して頂けたようでした。バランスボールを使った様々な体力作りの時には、実参加者の皆さんの元気な笑い声が体育館に響いていました。

今後も地域の方のニーズをとらえた素敵な講座の開催を目指しますのでご期待下さい！



同窓会 東京でも初の開催

*** 青森同窓会 ***
短大の同窓会総会および新入会員歓迎会を9月16日、青森国際ホテルで開催し、卒業生、本学関係者80名が参加した。総会では昨年度の決算、今年度の予算について事務局より説明し、承認された。引き続きおこなわれた新入会員歓迎会では、先輩・後輩同士で親しく交流し、また先生方には仕事のことなど近況報告し、終始にぎやかな会となった。

*** 東京同窓会 ***
東京同窓会は10月21日、市ヶ谷の私学会館で開催し、首都圏で暮らす卒業生と本学関係者19名が集った。はじめに同窓会長から「今日は先生方となつかしい母校の思い出を時間の許す限りお話下さい」と挨拶があった。現在のキャンパスや学生の活動などの紹介では、卒業時から変化している様子や当時の先生が映し出されると時折歓声があがる場面もあり、話は尽きることなく続いた。



教養講座「茶道遠州会特別講演」

6月5日、茶道遠州流13世家元の小堀宗実氏を講師にお招きし、茶道遠州会特別講演を開講しました。この特別講演は、茶道の基本的な知識を身につけ、教養を深めるとともに、学生の感性を刺激して想像力を豊かにするという趣旨で実施されたものです。

講演の前半では、小堀家元から「おもてなしの心」など茶道の精神や考え方をお話いただきました。後半は、遠州会の皆さまがその場で点てて下さったお茶を、お菓子とともにいただきました。また、教養科目の「日本の文化（茶道）」を履修している学生は、遠州会の皆さまのご指導のもと、お茶とお菓子を各座席に振る舞うお手伝いを行いました。

お茶をいただく際の挨拶と所作、茶碗の扱い方なども含め、茶道の心に接する貴重な機会となりました。

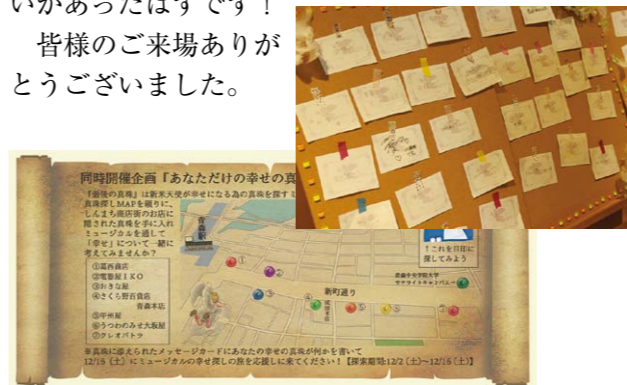


『あなただけの幸せの真珠を1つ探してみよう!』

～幼児保育学科ミュージカル『最後の真珠』同時開催企画～
今年のミュージカルは、来場参加型で工夫を凝らして開催しました。まず、チラシ裏に記載した真珠マップ掲載店に、真珠に見立てた手作りのクラッシュビー玉を設置しました。観客の方々は、地図を片手に自分だけの真珠を手に入れた後、真珠に添えられたメッセージカードに、幸せになるために必要な真珠は何かを添えて来場し、会場の掲示板を飾って下さいました。

ミュージカルの主人公：新米天使といっしょにストーリー展開にそって、それぞれの素敵な出会いがあったはずです！

皆様のご来場ありがとうございました。



東北町P-1グランプリ参加

食物栄養学科には、フードコーディネーターなどの知識を学ぶフードスペシャリスト資格課程が開設されています。9月23日、東北町で開催された創作ビザの祭典「P-1グランプリ」に、この資格課程を履修する2年生5名がチーム「Chu-tanっ娘5」を結成、特製カルツォーネを出品しました。

出品したカルツォーネは、上北町方面の地元食材であるほうれん草、にんじん、シジミ貝、長芋を盛り込み、青森名物の味噌カレー牛乳風味のソースで仕上げた地元志向のビザです。屋外で食べやすい形にもこだわって作成しました。

地元食材の調査やレシピの考案、試作、出品といった、料理の提供までの課程を実践するよい経験になりました。また、屋外で調理を行うなど、調理実習では経験しない場面にも遭遇しながら、臨機応変に協力し乗り越える力を身につけることができました。



連携企画展「仲良しの色彩」展

9月16、17日に行われた学園祭の中で青森中央短期大学附属幼稚園の子ども達と幼児保育学科1年生の造形作品の展示「仲良しの色彩」展が行われました。学生のアイデアにより、教室中央に子ども達と一緒に制作した透明な板と傘の作品が配置された展示となりました。

作品は幼児保育学科1年生の造形の授業の中で、子ども達と一緒に造形あそびをする中で制作されました。子ども達との制作は学生にとって良い学びとなったと思います。

透明な傘と透明な板を使った作品は、カラフルなテープやセロファン、そして、子ども達と学生と一緒に描いた絵で彩られ、作品からは子ども達と学生の活動の足あとが見える作品となりました。また、展示会場では制作活動中の映像も上映され、様々な子ども達の笑顔や頑張る姿が見える楽しい展示になりました。



「中短生が伝える青森の味! 彩り弁当」開発

私達食物栄養学科1・2年生が監修した弁当が、9月8日から9月12日の5日間、イトーヨーカ堂の「青森フェア」で販売されました。期間中の9月10日には、私達学生が実際に店頭立ち、直接お客様にお弁当を売り出しました。今年度は郷土料理やB級グルメをアレンジし、「懐かしくて新しい」をテーマに弁当を考案しました。

販売された弁当には、青森県民の愛すべきソウルフードであるイカメンチを焼売にしたイカメンチ焼売や、十和田のバラ焼きをイメージした焼き肉いなり、味噌カレー牛乳ラーメンとグラコを融合させた帆立入りグラタンコロケを入れました。いずれも、青森県産のイカや陸奥湾産の帆立といった、青森にちなんだ食材を用いて作られています。普通の弁当では不足しがちな野菜も多く摂取できるように気を遣いました。

(食物栄養学科1年
上田 紫穂、工藤 里菜、
堤 恵美)



ビオトープ絵本完成！

ビオトープ絵本シリーズ（1）『タニタニのだいぼうけん』は、本学ビオトープサークルに所属する学生自身が、企画立案および作画といった全工程を担当し、約10ヶ月という非常に長い制作期間を経て、本年度10月に完成しました。この絵本は、ビオトープの池に引っ越してきた、主人公の「タニタニ」（タニシ貝の妖精）が、メダカとお友達となってビオトープに生きている仲間たちと出会い、くまなく探検するというストーリーです。この絵本の活用方法としては、幼稚園や保育園の先生が子どもたちに事前に読み聞かせをした後、そのままビオトープに遊びに行くことを想定しています。

なお、今回、絵本の出版にあたっては、昨年度ビオトープサークルが受賞した「みちのく・ふるさと貢献基金」の助成金を活用しています。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



インターンシップ報告会・相談会

食物栄養学科では、1年生の2月に、病院や保育施設、介護施設、給食センターなどで、インターンシップを実施しています。また、インターンシップを経験した2年生が1年生にその体験を伝える機会として、インターンシップ報告会とインターンシップ相談会を開催しています。

今年度は7月4日に報告会が開催され、昨年度インターンシップに参加した現2年生9名が、期間中の勤務の流れや、事前に学んでおきたい知識、授業で学ぶ内容と実際の仕事とのつながりなどを報告しました。9月12日に実施された相談会では、教室内にインターンシップ先ごとのブースを設け、各ブースでその施設でのインターンシップの様子を詳しく紹介していました。また、1年生が積極的に質問する姿も見られました。2月に予定されているインターンシップに向けて、1年生が情報収集をするよい機会になったと思います。



ドレミぐるーぷ

ドレミぐるーぷは、子どもたちに交通安全を教えるJAFのボランティアグループです。今年度は幼児保育学科の2年生15名で、3回に分けて活動を行いました。

活動の時間は約30分間で、1回の活動で約7～8名が活動します。その回のグループのメンバーで、どうやって子どもたちに交通安全を教えたいかを話し合い、そして活動に向けて練習を行いました。3回とも主に劇とクイズで活動を行いました。第1回目では手品、第2回、第3回では音楽やダンスを取り入れて子どもたちの興味を引くという工夫もしました。

ドレミぐるーぷの活動は、実際の保育に似ていてとても良い経験になります。私達自身も楽しい気持ちを持って子どもたちに交通安全を教えることができました。

(幼児保育学科2年 蠣崎 聖菜)



西洋料理テーブルマナー講座

9月12日、青森市内のウェディングプラザアラスカで、食物栄養学科1年生対象のテーブルマナー講座を実施しました。この講座は大学行事の一環として毎年実施しているもので、1年生は西洋料理、2年生は日本料理の会食マナーを勉強します。西洋料理の講座では、会場であるアラスカより講師にお招きし、ナイフやフォークの使い方を含む食事の作法のほか、服装、離着席の方法、手荷物の扱いなどについてお教えいただきながら、コース料理を楽しみました。普段とは異なる雰囲気での食事に緊張した様子の学生も多かったようですが、就職活動や社会人生活の中で会食に参加する際に、今回学んだことを思い出して行動してほしいと願っています。



先生の自分史「私と音楽」

幼児保育学科 木村 貴子 先生



今振り返ると、私がクラシックからジャズピアノへと転向したのは、仕事で毎日同じ曲を演奏していた際に、ほんの少しアレンジを加えてみたのがきっかけだったような気がする。それからジャズ演奏をしている方々と自然に知り合い、泣いたり笑ったり色んな思い出と共に今の演奏スタイルに至る。若かった頃は、自分の好きな曲を好きなやり方で弾いていたが、ジャズのフレーズは決して自分だけのものではなく、これまで出逢った作品や共演者、そして熱心に聴いてくださる方々が与えてくれたものだというところに、今改めて気づかされる。時折、一緒に演奏しているメンバーと互いの微妙なやりとりや間合いがピタリと合う時がある。耳で聴きながら音で対話できるこの音楽に、いつもわくわくさせられる。自由だ！・・・10年後は、どんな音を奏でているのだろう。

研究室を訪ねて～本間研究室～

私たちの研究室では、本間先生のご指導のもとで研究を行ってきました。研究室に配属された後はいくつかのグループに分かれ、各グループで文献調査やコンピュータを利用した情報流通などから食に関係することを研究課題として取り組みました。私たちのグループは東日本大震災に関する食情報について研究を進めてきました。研究が思うように進まないとき、論文やスライドの作り方に悩んでいるとき、本間先生は優しく、丁寧にアドバイスをしてくれます。また、グループ毎に特別研究の時間を作ってくれるので、有効に作業ができます。たまに世間話に夢中になり、作業が止まることもありますが、それも楽しみのひとつです。基本的に自由な研究室なので、学生自身が計画性をもって進めることも重要でした。

(食物栄養学科2年 吉田 望華)



読んで欲しいこの1冊

食物栄養学科 本間 維 先生
『喜嶋先生の静かな世界』
森博嗣著（講談社、2010）

著者の森博嗣はミステリー小説を書く作家として有名ですが、元大学教員でもあります。この小説は、そんな著者の自伝的小説として発行されたものです。

主人公は、大学4年生のときに「喜嶋先生」という一風変わった先生の研究室に配属されます。授業のつまらなさから大学に失望していた主人公は、自分の知りたいことをとことん突き詰める研究活動に触れ、その面白さに没頭していきます。

大学が持つ、「教育」とは別の側面が「研究」です。その始まりを本学では特別研究というかたちで体験するわけですが、その先にどのような道があるのかを本書で垣間見ることができます。一方で、純粋に物事を考え研究を続けていくことの難しさも描かれています。

卒業生も活躍しています

幼児保育学科 45期生
青森第一とう幼稚園 勤務
奥崎 香織さん

保育園から系列園の幼稚園へ移動となり、私は今、幼稚園教諭1年目、保育歴2年目で3歳児、年少クラスの担任をしています。保育園から幼稚園へ移動になった時には不安も多少ありましたが、毎日子どもたちのパワーや笑顔を糧にして過しています。

4月に初めて集団生活をスタートする子ども達。最初はお母さんと離れられずに泣いていました。今では毎日「行って来ます！」と笑顔で別れる姿になり、子どもたちの成長を間近でみられることに幸せを感じています。

まだまだ子ども達への対応の仕方については日々勉強中ですが、どんな時も笑顔で明るく子どもたちの前へ立つことが何より大切だと実感しています。

これからも一人ひとりの子どもたちに合った対応ができるよう精進していきたいと思っています。

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

楽しかったね合宿保育

7月20日・21日、大学の体育館・グラウンド・各幼稚園・保育園を会場にして、5園の年長さん184名が集まって合宿保育が行われました。

初めてのお友だちと一緒にグループになっても、協力して扇ねぶたの色塗りをしているうちに、すぐに仲良し。ウォークラリーでは、友情を深めました。各ポイントで力を合わせて課題を解決してすすむラリーのコースの中でも、人気は新しくできたサッカー場。素晴らしい芝生に歓声を上げながら、ボールを蹴り走り回りました。そして、次のスタンプポイントのピオトープでは、蟬の抜け殻を見つける子も多く、夏の自然を満喫しました。

きれいな附属第一幼稚園でおいしいカレーライスを「おかわり！」したり、暗くなったグラウンドで三思園のみなさんと一緒に盆踊りをしたり、夜空を彩る大きな打ち上げ花火をうっとり見上げたり……いっぱい楽しみました。

そして各園に戻り、お泊り体験。ふだん暮らしている大好きな園でのお泊りには心配もなく、でもちょっと違う雰囲気新鮮で、仲良しのお友だちと一緒にのおふとんで過ごした一晩は、忘れられない思い出になったことでしょう。お家を離れて一泊した年長さんはぐんとたくましく成長してお家に帰りました。



先生達活躍しています 第15回

心に残る保育をめざして

認定こども園附属第一幼稚園

笹原 舞先生

私は、子育てをしながら、附属第一幼稚園で1歳児を担当しています。毎日の生活の積み重ねが手に取るように感じられ、日々成長していく姿はみんな我が子のように、とても愛おしく思えます。登園してくると「おはよう！」とぎゅっと抱きしめて、愛を受け止め、満足して降園する際は「バイバイ！」と満面の笑みに、私自身も幸せを感じています。どんなお顔で、どんな大人になるのだろうと思う度に、今しかない大切なこの時期にたずさわれることの素晴らしさに、これほど素敵な仕事はないと思います。

将来、こんな先生もいたなあと思い出してくれるような、温かい保育をこれからも心掛けていきたいと思っています。

子ども達の成長を楽しみに

認定こども園附属第三幼稚園

山田 美紀子先生

今年度、年少組の担任をさせて頂いています。好奇心旺盛で元気いっぱいな子ども達と奮闘し、充実した毎日を過ごしています。

入園、進級当初の子ども達の姿から、様々な行事や友達同士の関わりを経験しながら成長していく姿を目の当たりにできることは、保育教諭としての醍醐味でもあると思います。

私自身も二人の子育て経験者ではありますが、子どもの接し方に自問自答している日々で、子育てに『正解』はないと感じています。その時、その場の子ども達の状況を把握しながら、今後の保育に活かしていきたいと思っています。

一人ひとりが自信を持てるように

認定こども園附属第二幼稚園

二子 美保子先生

私は今年度から附属第二幼稚園で勤務し、3歳児を担当しています。初めて集団生活をする子も多く、4月当初は不安な表情を浮かべて登園する子がほとんどでしたが、行事を重ねるごとに笑顔も多くなり、何事にもチャレンジする気持ちを少しずつ持てるようになりました。おにいさんおねえさんになる意識も芽生え、とてもたくましく感じています。3歳になると、身の回りの事が一人で出来るようになります。しかし、まだ完璧に出来ない時もあり、その時は、全て手を貸してしまうのではなく、「できた！」という子どもの達成感を大切にしながら援助しています。

おゆうぎ会に向けての練習も始まり、一生懸命振り付けを覚えようと日々練習に励んでいます。恥ずかしがり屋な子もいますが、「踊りたい！」という意欲を引き出しながら、自尊感情を育てるような明るい環境を整え、その子の個性を認めてあげながら、今後も楽しい保育をしていきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園中央文化保育園 **猿舘 佳子先生**

『おちばいちば』

西原みのり作（ブロンズ新社、2011）

主人公のさっちゃんがドングリのお馬さんに乗ってやってきたのは「おちばいちば」。木の実でつくったごちそうや、落ち葉のスカートなど、さっちゃんがにぎやかな市場を大満喫する絵本です。

細かいところまでしっかり描かれているので、隅々まで見たい子どもたちのためにゆっくりとページをめくります。

子ども達は知っている秋を絵本から見つけては口に出して教えてくれます。みんなで秋探しを楽しめる一冊です。



青森中央経理専門学校 ○ 青森中央文化専門学校

特別公開講座「好きを仕事にする」を開催

青森中央文化専門学校では7月30日、青森市古川ブラックボックスにおいて、本校カラーコーディネート講師の岡詩子先生による公開講座を開催しました。

第一部講演「青森から発信 個人ブランドの作り方」では、起業のプロセス、インターネットを活用してのブランド経営のノウハウを、ご自身の色々な経験談を交えながらお話いただきました。また、第二部ワークショップでは、先生こだわりのリネンを使い巾着袋を制作、レースや刺しゅう糸を使いデコレーション。会場は終始和やかな雰囲気、最後は出来た巾着袋を持ち記念撮影で幕を閉じました。



青森中央文化専門学校×ドリームタウンALi コラボレーションファッションショー

10月28日、ファッション販売専攻の学生を中心に、「青森中央文化専門学校×ドリームタウンALi コラボレーションファッションショー」を開催しました。ファッション商品販売業振興の活性化、また地域との産学連携・地域社会参加型プロジェクト事業となる本イベントは、ドリームタウンALiのテナント12店舗にご協力いただきました。



今年で4年目となる今回は、ドリームタウンALi10周年記念のイベント内で実施されました。企画・運営・スタイリング・フィッター・ナレーションを担当する学生は、各店舗の担当者と入念な打合せを重ね、当日は多くのお客様にご来場いただき、大盛況に終わりました。



『田園に死す』衣装製作に参加

8月6日に開催された、寺山修司記念館20周年記念事業 幻想市街劇『田園に死す』に、衣装協力として青森中央文化専門学校アパレル専攻の学生が参加しました。

事前に三沢市公会堂にて行われた説明会・オーディションで、これまでに制作した作品等をアピールし、劇団員の制服となる袴16着と、リメイク作品2体を制作。その他、必要な衣装の調達も行いました。

本番前には現地で衣装の最終チェックや、稽古の見学もさせて頂き、とても貴重な経験となりました。

大盛況に終わった幻想市街劇『田園に死す』は4月1日まで寺山修司記念館で展覧会が行われています。



撮影：デーリー東北新聞社写真クラブ

職業体験フェアに参加して

青森中央経理専門学校 清野 結希

今回ツアープランニング体験のお手伝いをするにあたり事前に簡単な問題やプランを作成し臨みました。フェア当日は、最初の一組目がブースに来た時には緊張してうまく教えることができませんでした。しかし徐々にこちらが慣れてくると、来場者の方も自ら時刻表を取り取りプランニングに繋がっていき、興味をもって頂いたと感じました。あまり交流のない中学生や高校生の来場者が多く、貴重な経験となりました。



経理発信情報 Vol.20

～パソコン講座 in 青森県総合社会教育センター～

8月24日・25日の2日間にわたり、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を実施しました。今回はWord・Excelの基礎・応用講座と題して、基本操作とともにWordではハガキ作成を、Excelではカレンダー作成を行い、学生と参加者がほぼ一対一で、時折、世間話も交えながら講座を進めていきました。

参加者からは「また機会があれば参加したい」などの感想があり、また、学生からは「大変だったけど良い経験になった」などの感想がありました。参加者の大半が2日間とも受講するなど、大変好評をいただいた講座となりました。



おススメ図書 vol.17

青森中央経理専門学校 猪股 俊秀 先生

『プレゼンテーションは話す力で決まる！』
福田健 著 (ダイヤモンド社,2002)

今日、企業でも官公庁においても、社員・職員的能力開発として、「プレゼンテーションスキル」は、もっとも力を入れているものの一つです。また、仕事に携わる人としても、必要性を痛感して、能力の向上を図ることに強い関心を抱いています。

従来のプレゼンテーションは、口頭表現の技術に中心が置かれたものがさわめて少なく、発想法、企画書の作り方など、内容づくりに関するノウハウや、動画作成の技術などに中心が置かれています。

しかし、プレゼンテーションを巡る状況が大きく変化している現在、人々の関心は、「話して聞かせる技術」の習得に移行しています。プレゼンテーションを成功させるうえで、最初のつかみをどのようにすれば、聞き手の心をつかめるのか。また、準備が不十分なまま本番に臨んでも、うまくできません。効率的な準備はどうすればいいのか、いかに効果的な表現をして、聴衆に話を聞かせるか、などが紹介されています。

ファッション通信 vol.18

～コーディネートスナップ～2017 AW～

今回よりコーディネートスナップを紹介する企画へリニューアルしました。

第一弾は秋冬には欠かせないチェック柄と、靴下のマスタード色がポイントのコーディネートです。アイテムは、ハイネックで袖の形が特徴的なブラウスと、タックの入ったパンツを組み合わせました。パンツはハイウエストなのでスタイルが良く見えます。



ベレー帽や伊達メガネなどの小物は、さりげなくお洒落度をアップさせることができます。おすすめです。

今年はグレンチェックやゴブラン柄もトレンド。気軽にカジュアルアイテムとミックスさせて、ファッションを楽しみましょう。

(記事・写真：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.29

青森中央文化専門学校 平成28年度卒業

株式会社コンノソーイング勤務
遠山 瑠菜さん

私は青森中央文化専門学校を卒業後、宮城県にあるコンノソーイングという縫製工場に就職しました。現在はソーイングオペレーターとしてワンピースを主に縫製しています。

在学中はアパレル専攻でパターンメイキング技術・知識やファッション造形知識について学び、衣装製作や縫製工場での実習で更に技術を磨きました。学校で工業用ミシンにも慣れていたので、入社してすぐ生産ラインに入ることができました。

まだまだ慣れない事もありますが、購入するお客様に満足していただけるような商品を作れるよう、1枚1枚を丁寧に縫製することを心がけ、日々精進していきたいと思います。



学園共通

絵画作品寄贈

サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」での油絵展開催等でご縁のある画家の小林麗先生（創元会・青森支部長）より、青森田中学園へ絵画2点（『書店のある通り』『坂道のカフェ』）とレプリカ1点（ピカソ作「ゲルニカ」）をご寄贈頂きました。これを受け7月11日、感謝状・記念品贈呈式を行いました。

寄贈作品は2点とも7号館に飾られています。194.0×130.3cmの大キャンパスに描かれた作品は、学生が行き交う空間に、彩を添えています。本学にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

なお、小林先生の作品は、9月に開催した翔麗祭での「街なかフレンドリー油絵展」においても展示され、来場者の目を楽しませていました。



感謝状・記念品贈呈式

本学図書館への図書寄贈

本学園の図書館は、学園に在籍する学生だけでなく、地域の方々へも開放しており、本学所蔵の書籍の幅広い活用を図っております。

また、本学園では毎年、本学の学びを活かした公開講座を開講しており、多数の市民の皆様にご参加いただいております。

この度、本学園公開講座受講者より、本学園図書館へ図書購入のためのご寄付をいただきました。ご寄付には、公開講座関連書籍の充実に充ててほしいとの要望が寄せられており、今回この要望を受けて、白取春彦氏の公開授業に関連する書籍を新たに購入しました。なお、ご寄贈いただいた書籍は現在、特設の「白取春彦コーナー」を設け紹介しております。

本学園図書館をご利用の際は、ぜひお手にとってご覧ください。また、本学園図書館へのご厚意に厚く感謝いたします。



連携協定締結

青森市との連携協定締結

10月23日、青森市と青森市内高等教育機関連携機関（青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森大学、青森公立大学、青森県立保健大学、青森明の星短期大学）との包括連携協定の締結を行った。

これまで、青森市と学校法人青森田中学園とは個別に包括連携協定を締結していたが、様々な地域課題の解決に当たり、今回、青森市と市内の全大学・短期大学の高等教育機関6校が連携して取り組んでいくことを目的とした、連携協定を締結する運びとなった。

今後、青森市と青森市内高等教育機関は連携を強化するとともに、若者を中心とした起業支援・新産業の創造、地域のコミュニティ活動の支援、地域経済の活性化、健康寿命の延伸活動など、協力しながら取り組んでいくこととした。



青森商工会議所との連携協定締結

10月23日、青森商工会議所（会頭 若井敬一郎）と青森中央短期大学、青森明の星短期大学は、連携協定を締結した。

青森商工会議所は、これまで青森中央学院大学を含む市内の4校の四年制大学と弘前大学の5大学と連携協定を結んでいるが、今回の連携協定締結によって、青森市内の2短期大学を含めた7大学・短期大学との包括的な連携協定となった。

今後、商工会議所会員企業や青森県、青森市を交えた青森地域産学連携懇談会を定期的に開催するほか、青森市中心市街地でのまちなかキャンパス公開講座のほか、地域の活性化や、健康・福祉の増進など協力して取り組んでいくこととした。

協定締結式後の、青森地域産学連携懇談会では、参加した各大学や商工会議所、行政、金融機関から様々な意見があり、今後の連携事業に活かしていくこととした。



平成30年4月開設 別科助産専攻

青森中央学院大学ではこの度、「別科助産専攻」の指定学校申請を行い、認可を受けました。

青森県の出産、子育て環境の現状においては、産科施設の減少、産科医の不足や偏在により、安心して出産することが難しい地域が見られます。また、少子化、核家族化、晩産化等を背景として、「子育て不安」「産後うつ」「子どもの虐待」など様々な課題が浮かび上がってきており、妊産婦さんや赤ちゃんへ切れ目のない支援のために、助産師の需要が高まっています。

しかし、県内の助産師をめざす看護学生および看護師にとって、青森県内に1年課程の助産師養成施設は存在しません。従って本専攻が新設されれば効率の良いキャリアアップの機会が提供されることとなり、母子保健の環境改善に貢献することができます。



本学看護学部は、平成30年3月には「看護師」「保健師」をめざす第1期生が卒業する予定です。加えて、本申請の認可により、本学は「助産師」養成で地域貢献できることとなります。

なお、入学試験は平成30年2月に実施する予定です。また、入学試験に関する詳細については、本学ホームページでお知らせしております。

【青森中央学院大学別科助産専攻について】

- 入学定員：5名
- 修業年限：1年
- 取得可能資格：助産師国家試験受験資格
- 養成する人材像

現代社会における周産期医療の特性・課題を踏まえて、安全で質の高い助産実践力を身につけ、女性の一生の健康保持増進を支援し、安心して子どもを産み育てられる地域づくりに貢献できる助産師を養成します。

開催行事案内

青森中央学院大学

●スポーツ科学セミナー

会場：学術交流会館2階

日程	内容	講師
2月17日(土) 13:00~16:00	科学の窓から野球を眺める ～上達のコツを知るための科学の眼～	大阪大学准教授 松尾 知之 氏

青森中央学院大学地域マネジメント研究所

●あおりリズム創発塾「あおり冬季アクティビティ企画セミナー」

日程	内容	会場
1月20日(土) 14:00~17:30	SNSを利用したあおり観光資源の発信	青森中央学院大学
2月実施予定	三内丸山遺跡でのアクティビティ実施	三内丸山遺跡

青森中央短期大学

●福祉セミナー

日程	内容	講師	会場
1月27日(土) 10:00~13:00	介護者のための調理工夫 1回目	食物栄養学科助手 辻村 明子	1号館2階調理室
2月10日(土) 14:00~15:30	感情に働きかける介護	株式会社あおいけあ代表取締役 加藤 忠相 氏	2号館3階 233講義室
2月25日(日) 10:00~13:00	介護者のための調理工夫 2回目	食物栄養学科助手 辻村 明子	1号館2階調理室
3月10日(土) 13:00~14:30	いつでも楽しく明るく人生を！～福祉・介護現場で活かせる腹話術！～	プロ腹話術師 スージー 氏	学術交流会館2階 921講義室

●連続公開講座

会場：青森中央短期大学1号館2階調理室

日程	内容	講師	参加費
2月24日(土) 10:00~12:30	親子クッキング「桃の節句のごちそうを作ろう！」	食物栄養学科助手 白取 敏江	親子2人1組800円



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、3月発行予定の100号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■100号応募締め切り：2月20日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第99号

発行日：2018. 1. 30

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

杉田 由佳理 外 千夏

前田 美樹 本間 維

齋藤 明日香 坪谷 輝子

八木橋ひろみ 岩葉 悦子

高橋 晴美 中田 尋美